

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

次 第

〔 日 時 令和5年2月10日(金) 13:30～15:00 〕
〔 場 所 飯田合同庁舎 講堂 (Web 会議) 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 伊那谷の強みを活かした重点的な取組について【資料1】

(2) 企業誘致の今後の進め方について【資料2】

4 報告事項

(1) リニア長野県駅（仮称）の駅前空間の検討状況について【資料3】

(2) リニア長野県駅の広域的な利活用検討の進め方について【資料4】

(3) 戦略的チャレンジの成果・課題・今後の方向性について【資料5】

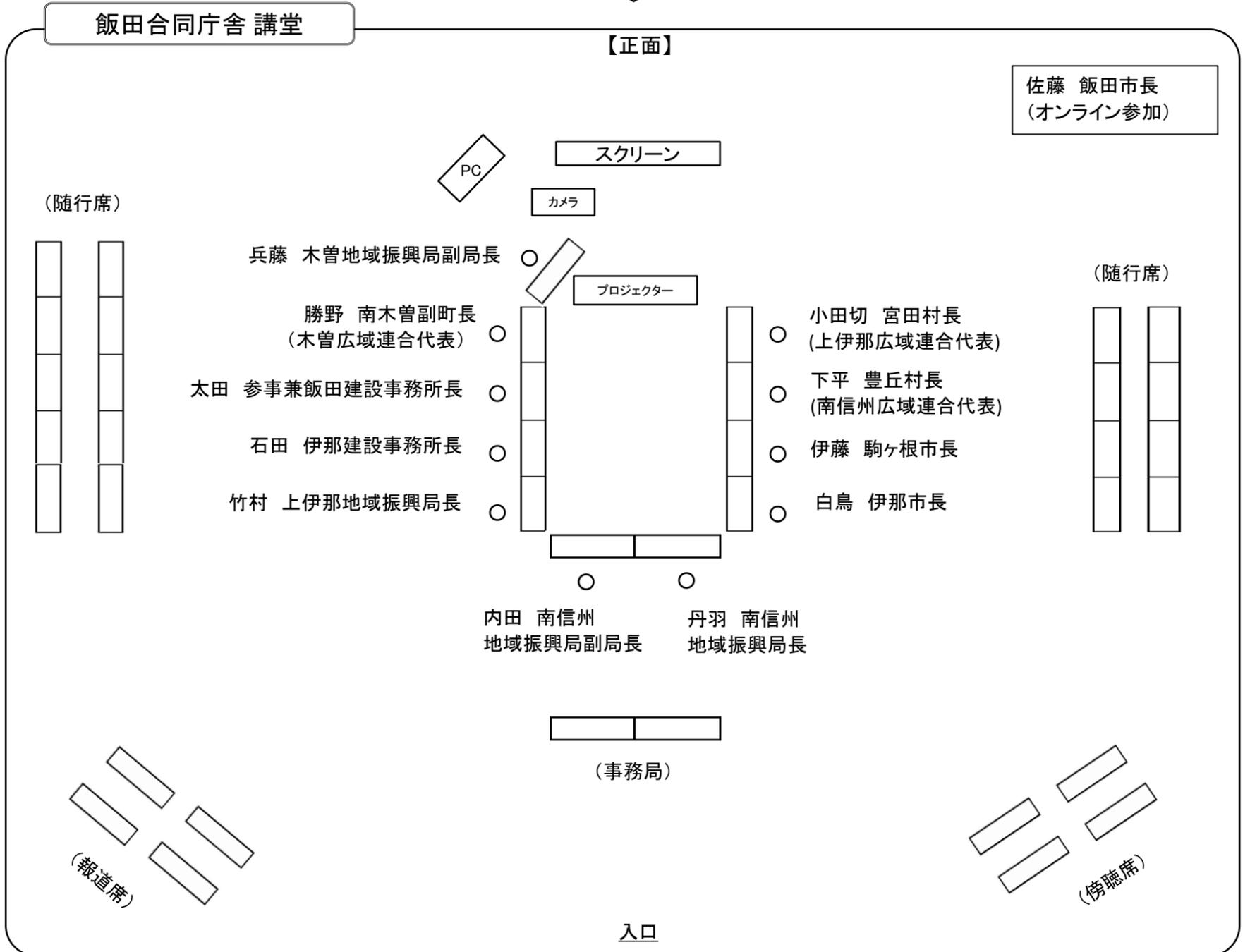
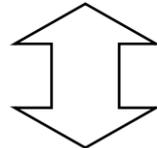
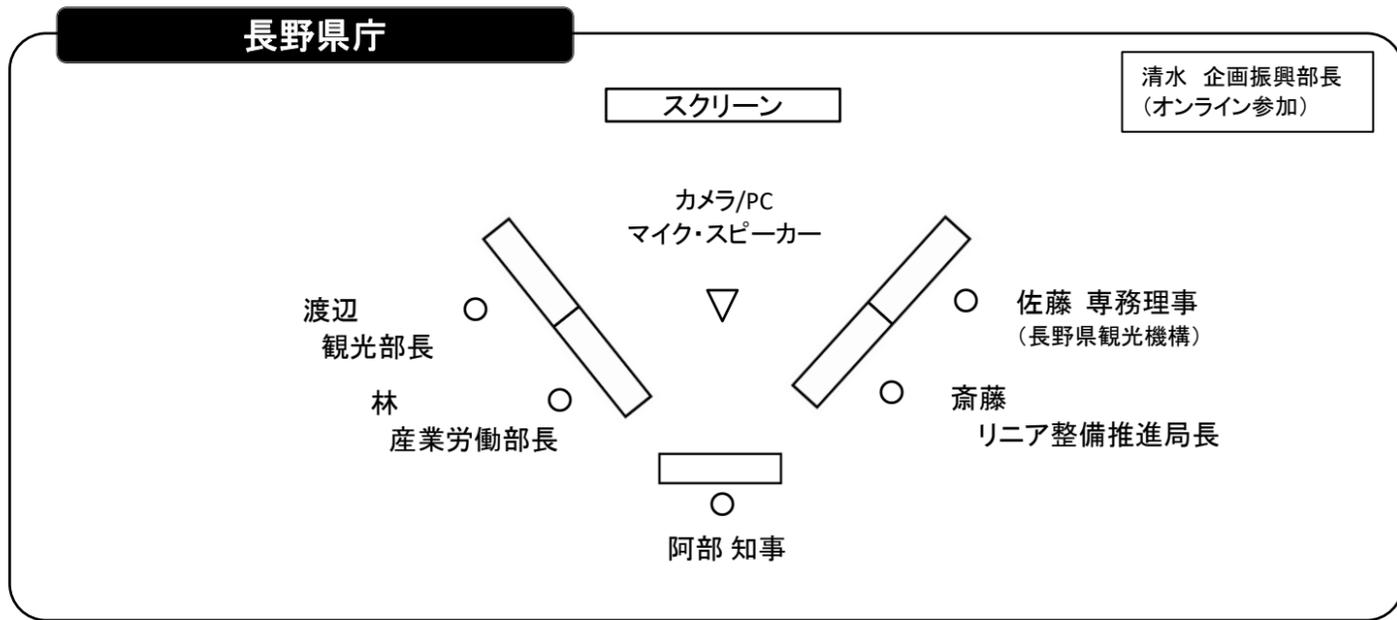
5 閉 会

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

出席者名簿（敬称略）

区 分	所 属	氏 名
座 長	長野県知事	阿 部 守 一
市 長	飯田市長	佐 藤 健
	伊那市長	白 鳥 孝
	駒ヶ根市長	伊 藤 祐 三
広域代表	南信州広域連合代表（豊丘村長）	下 平 喜 隆
	上伊那広域連合代表（宮田村長）	小田切 康 彦
長 野 県	上伊那地域振興局長	竹 村 浩一郎
	南信州地域振興局長	丹 羽 克 寿
	伊那建設事務所長	石 田 良 成
	参事兼飯田建設事務所長	太 田 茂 登
	リニア整備推進局長	齋 藤 政一郎
オブザーバー	木曾広域連合代表（南木曾町副町長）	勝 野 実
	木曾地域振興局副局長	兵 藤 裕 一

伊那谷自治体会議 配席図



伊那谷の目指す方向性や重点的に取り組むべきこと に関する主なご意見

1 伊那谷の目指す方向性・地域特性

ア 環境先進地（雄大な自然を生かす）

- ・リニアで近くなるということに加え、時代の変化を掴んで、サステイナブル、SDGs など循環型社会の視点に基づいた発信が有効。
- ・伊那谷は SDGs 環境に対する意識が高く、冬も天候が良い。
- ・エネルギーも従来の化石燃料から太陽光だけでなく、小水力やバイオマスも活用し、省電力も進める。
- ・地理的な特性は、2つのアルプス。日本ではここにしかない。
- ・伊那谷の景観は素晴らしい。南向きで温暖で、災害も少ない。

イ 食料・エネルギー自立地域

- ・食料やエネルギーを自分たちで手立てできる、安心して暮らせる地域を目指し、わかりやすい言葉で発信していく。これがこの地域の魅力となる。
- ・森林活用や農業を強みとして、産業として外貨を獲得するというより、この地域だけで独立し、安定して生きていけるようにしたい。

ウ 教育や文化

- ・優先度が高いのは教育、人材育成。フィンランドの教育などを参考にしてほしい。
- ・芸術や音楽も重要な視点。地域の厚みが出る。

2 広域で重点的に取り組むべき事項

- ・リニア駅周辺の脱炭素街区等、水力発電を伊那谷全体に横展開する
- ・EV充電スタンドなどのインフラ整備
- ・太陽光発電の推進
- ・地元の農産物を地元で買う地域内循環の推進
- ・有機農業など環境配慮型農業の推進
- ・急峻な地形に適した最新の架線集材による主伐・再造林
- ・農業の担い手確保

◆ その他

- ・企業誘致は、通信環境の整備とセットで進めていく必要がある。ローカル5G、WIFI など環境が整っていない地域に企業は来ない。
- ・二次交通やDXのインフラ整備は確実に必要。
- ・二地域居住など新しい働き方が進んでいて、市民・住民の定義の見直しが必要。例えば、住民票の2重発行、学校の短期間での転校など、住民サービスをフレキシブルに行うことができる地域として、伊那谷をリニア特区申請してほしい。
- ・移住・定住のために、まずは伊那谷を知ってもらうこと。

伊那谷の強みを活かした重点的な取組について(たたき台)

伊那谷自治体会議事務局

リニアバレー構想策定から7年、戦略的チャレンジの取組着手から3年が経過し、構想の具現化に対する取組の進捗が課題となっている。また、この間の社会・環境の大幅な変化を踏まえ、改めて、地域の特性を活かし、伊那谷が国内外から選ばれる地域となるための重点的な取組について、県、伊那谷の自治体が連携し、取組に着手し、さらに加速化していくことが必要である。そのための今後の方向性について、ご議論をお願いします。

◆ 伊那谷の強み、特色に基づき目指すべき方向性(事務局検討素案) ～国内外から選ばれる伊那谷となるために～

○ 持続可能な環境共生先進地域づくり

(取組例)

- ・水力発電・バイオマス発電、太陽光発電によるエネルギーの自給自足
- ・EV充電スタンドの伊那谷全体への面的整備
- ・主伐・再造林による木材の利用促進及びCO₂吸収力向上
- ・有機農業など環境配慮型農業の推進と地元農産物等の地域内消費の拡大

○ 豊かな自然環境と独自の文化などを活用した教育・学びの先進地域づくり

(取組例)

- ・信州やまほいくや山村留学など自然環境を活かした教育環境の整備
- ・伊那小などの取組や伝統芸能の活用にみられる特色ある教育の推進
- ・公民館での学びや大学と連携した学びの場の創出

環境先進地・エネルギー自立地域づくり

○環境省の環境モデル都市・脱炭素先行地域に選定されるなど全国的にも先進的な取組を推進（飯田市）

- ・地域マイクログリッド
- ・リニア駅周辺の脱炭素街区・スマートグリッド構築
- ・グリーンインフラ整備

○環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）による脱炭素の取組を推進

- ・太陽光利用システム、木質ペレットストーブ等の購入補助、公共施設への導入等（伊那市）
- ・公共施設への太陽光発電設備設置等（箕輪町）

○環境先進地としてゼロカーボン社会実現への住民意識は高く、地域活動が活発

- ・レジ袋削減にみる先駆的な環境活動（プラスチックスマート推進）（南信州）
- ・一日一人当たりの一般廃棄物の排出量が県平均以下（上伊那）
- ・官民協働による独自のエコマネジメントシステム「いいむす21」（南信州）

○再生可能エネルギーの普及拡大

- ・長野県企業局と地元企業・自治体が連携した再生可能エネルギーの地産地消企業局水力発電所数 伊那谷16か所／県内23か所
- ・再生可能エネルギー促進区域設定（箕輪町）

○豊富な森林資源の先進的な循環利用の取組

- ・木質ペレットの生産量が全県の約7割（上伊那）
- ・「50年の森林（もり）ビジョン」の策定（伊那市）
- ・循環経済型林業に取組む「木の糸コンソーシアム」（根羽村）
- ・山の放置木と地域通貨の交換により経済循環する「木の駅プロジェクト」（中川村）

○有機農業など環境配慮型農業の取組み

- ・学校給食への提供等により地産地消を進め、遊休農地解消にもつながる持続可能な有機農業の実践（松川町）

豊かな自然と雄大な景観

○天竜川沿いに形成された河岸段丘に美しい田園風景が広がる

○二つのアルプス（南アルプスと中央アルプス）に抱かれた雄大な自然が存在

- ・千畳敷カール（駒ヶ根市・宮田村） ・陣馬形山（中川村）
- ・高遠城址公園（伊那市） ・南アルプスジオパーク（伊那市・大鹿村）
- ・遠山郷、天龍峡、下栗の里（飯田市）

恵まれた自然環境を活かした学びの場

- **自然環境を生かした体験、仲間や地元の人々との関わりを通して、豊かな人間性を育む「山村留学」**
 - ・伊那谷10団体／県内16団体
 - フリーキッズ・ヴィレッジ（伊那市）、和合小学校親子山村留学（阿南町）
 - 浪合通年合宿センター（阿智村）、山村留学センター売木学園（売木村）など
- **豊かな自然環境を生かし、子どもが本来持っている自ら学び、成長しようとする力を育む「信州やまほいく」**
 - 伊那谷 61園(8市町村) 県内270園（43市町村）
 - ・特化型 4園（公立 1園 私立3園）
 - ・普及型 57園（公立45園 私立12園）

- **他地域から注目を集める学びのカたち**
 - ・児童が日常的に学校林の中で過ごし、様々な学びに生かす（伊那西小学校）
 - ・豚の飼育や出荷で食物の大切さを学ぶなどの総合学習（伊那小学校）
 - ・保育園での学びを小学校へつなげる（平谷小学校）

- **豊かな「学びの土壌」を活かした、「学習と交流」**
 - ・地域の価値を理解し、誇りを持つ人を育む力（地育力（ちいきりよく））を活かした「ふるさと学習」や「キャリア教育」（飯田市）

公民館活動などの学びと自治

- **全国的に評価される公民館（飯田市）**
 - ・地域の課題は地域で解決するため、住民自らが事業を企画立案・展開するなど公民館本来の目的に則した活動を実践
 - ひさかたわしの紙漉き体験、天龍峡夏季大学、夏休み子ども寺子屋など
- **関係人口によるまちづくり**
 - ・多様性を尊重し、地域の魅力発信や賑わいづくりに取り組む「トビチ商店街」や地元と来町者をつなぐプラットフォーム「信州フューチャーセンター」（辰野町）
 - ・情報と交流の拠点、居場所づくり「伊那まちBASE」（伊那市）
 - ・放置竹林整備に関係人口が集まる「いなだに竹Links」（飯田市）
 - ・地域住民が教授となり、伝統芸能の伝承やきのこの山の幸のマーケティングを実践しながら、村の暮らしを学ぶ「秘境大学」（天龍村）

- **次世代の育成**
 - ・産学官、地域が協働して次世代の育成（キャリア教育）や地域づくりを実践する「郷土愛プロジェクト」（上伊那）

- **大学のあるまちづくり**
 - ・大学・研究者による有機的なネットワークでモデル的な研究・取組を地域とともに行う「学輪IIDA」（飯田市）
 - ・リニア時代に向けた新たな地域づくり（国土利用、環境政策、地域づくり・人づくり等）に寄与する「ランドスケープ・プランニング共同研究講座」（飯田市）

- **新校の協議・検討を通じた魅力的な学びのあるまちづくり**
 - ・伊那新校・上伊那総合技術新校（ともに仮称）（上伊那）

- **その他**
 - ・JICA、JOCAと連携した学びと交流のまちづくり（駒ヶ根市）、まちづくりへの意見提案・自主的活動を行う高校生や大学生「わかもの特命係」（高森町）

伝統芸能を始めとする独自の文化

- **民俗芸能の宝庫**
 - 国指定重要無形民俗文化財 伊那谷6団体／県内10団体
 - 国選択無形民俗文化財 伊那谷11団体／県内23団体
 - ・ユネスコ無形文化遺産に登録された「風流踊」（阿南町）
 - ・ユネスコ無形文化遺産登録を目指す「神楽」（飯田市、天龍村）
 - ・住民の手作りによる奉納花火「清内路花火」（阿智村）
 - ・伊那の人形芝居「古田人形」（箕輪町）「黒田人形」「今田人形」（飯田市）「早稲田人形」（阿南町）
 - ・農村歌舞伎として継承「大鹿歌舞伎」（大鹿村）「中尾歌舞伎」（伊那市）

- **地域の技、生活の知恵**
 - ・伊那紬（駒ヶ根市）
 - ・水引（南信州） ・阿島傘（喬木村）
 - ・わら細工、竹細工、炭焼きなど

- **食文化**
 - ・昆虫食（上伊那） ・和菓子（飯田市）
 - ・信州伝統野菜の宝庫（伊那谷30種／県内81種）

戦略的チャレンジ（企業誘致関係）のテーマの修正案及び取組み

【現行】

- ・グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進
- ・大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

【修正案】

- ・グローバル経済圏で活動する企業のサテライトオフィス誘致や、フルリモートで勤務する社員の誘致（二拠点居住・移住促進）
- ・大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

目指す姿

デジタルの力と地域の魅力を融合し、地域の価値を高め

**クリエイティブ人材や高度IT人材のはたらく場を創出
国内外から若者が次々集まるまちをつくる**

【取組】 最先端デジタル社会実現事業

～リニアバレーつながり（関係）人口創出・グローバル企業誘致事業～

新最先端デジタル社会実現事業

～リニアバレーつながり（関係）人口創出・グローバル企業誘致事業～

産業立地・IT振興課

1 目的

リニア中央新幹線の開業を見据え、周辺地域へIT企業の立地を促進させ、地域経済を活性化し、つながり（関係）人口の創出と若者が定着する魅力ある地域をつくる。

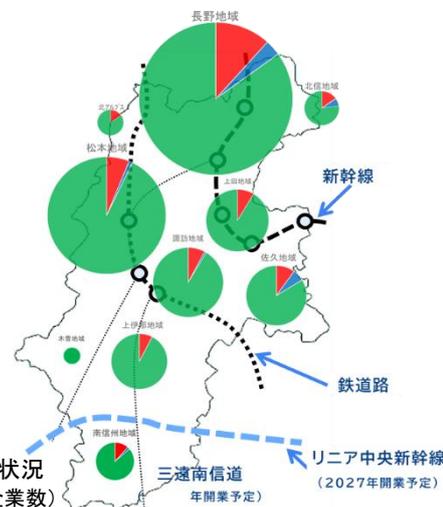
2 現状と課題

南信地域は、リニア中央新幹線の開業により、スーパーメガリージョン※が形成され、国内のみならず世界に対してインパクトを与える一大経済圏となる可能性を秘めている。

また、県内の他地域に比べ労働力人口比率が高く、また将来労働力人口となる15歳未満人口の割合も高いことから、企業が立地した際の人材確保も有利であるが、東北信地域と比べると、IT企業の立地件数が少なく、人口減少社会に対応できていない。

労働力人口：東信 53.9% 南信 54.3% 中信 53.8% 北信 51.0%

15歳未満人口：東信 11.5% 南信 12.4% 中信 10.9% 北信 10.4%



※ スーパーメガリージョン

⇒2027年にリニア中央新幹線が開通することで、首都圏と中部圏と関西圏の3大都市が一つに繋がりが、巨大な経済圏が作り出される。首都圏、中部圏、近畿圏の総人口は8,200万人に上り、世界でも有数の巨大都市であるシリコンバレーの1,000万人を大きく上回る。

3 事業内容

スーパーメガリージョンに組込まれる当該地域においては、ターゲットを世界ととらえ、グローバル展開する企業の立地を、地域振興局及び市町村、地域商工団体等と緊密に連携し取り組む。

具体的には、「おためし立地チャレンジナガノ リニア版」として、地域の持つポテンシャル等（強み・弱み）を発信し、マッチング・伴走支援を行い、GAFAMをはじめとしたグローバルに展開する国内外IT企業を呼び込む。

これにより、地域の魅力を高め、クリエイティブ人材や高度IT人材の働く場を創出し、世界とつながるリニア地域に若者が次々と集まるまちに変えていく。

4 取組内容

- (1) 地域のポテンシャル（強み、弱み等）把握
- (2) 地域ポテンシャル情報の発信・マッチング
- (3) 地域と国内外の企業との連携（つながり（関係）の創出）
- (4) サテライトオフィス誘致やフルリモート社員の二拠点居住や移住を促進

